



来週の投資戦略 (7/11-15)

決算も経済指標も

2022年7月10日

小松 徹

注目事項 - 見所

- 米国企業 4-6 月期決算 — 金融業は金利の乱高下に対応できたか？
- わが国企業 3-5 月期決算 — 明暗分かれる？
- 7月11日、5月の機械受注（船舶・電力を除く民需） — 前月比マイナス 5.5%？

株式市場見通し

先週金曜日昼に安倍元首相が選挙演説中に撃たれ、心肺停止になったとの報で、前場まで堅調に推移していたわが国の株式市場は後場下落して始まったが、大きく崩れることはなかった。さらに、注目の米国6月の雇用統計もすべての指数が予想通りかやや予想を上回ったことで、日経225の先物は上昇して引けた。これで来週のわが国株式市場は堅調に推移するだろう。その際に成長株が市場のリード役になろう。2週続けて成長株が割安株を大きく上回って推移していることが根拠になっている。

現在、わが国企業の3-5月期決算の発表が続いている。先週までに発表した企業の中で目立った点はイオン(8267)が値上げをしないで集客力を高めて好決算だった一方、良品計画(7453)は人気商品がなく、中国でもロックダウンの影響を大きく受けて大幅な減益を続けた。来週最も注目されるのは木曜日発表のファーストリテイリング(9983)だ。4・5月の国内売上高が好調だったので、中国を除く海外売上高が良ければ、好決算が期待できよう。ただし、6月の国内売上高が低調だったので、今期業績予想の修正はないとみる。

米国企業の4-6月期決算発表では、木曜日のJ.P.モルガン・チェース（銀行最大手）とモルガン・スタンレー（大手投資銀行）に注目している。J.P.モルガンの4-6月期一株当たり利益（EPS）は前年比22%減益とアナリストは予想している。7-9月期もほぼ同様の減益と厳しい。債券市場が乱高下したのでそれによっても振れ幅がさらに大きくなる可能性もあろう。モルガン・スタンレーも同様の傾向だろう。7月に入って売り推奨するアナリストも現れた。ここ3か月三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)の株価動向が冴えない要因の一つかもしれない。

最後に来週注意すべき海外の経済指標について。水曜日に米国で6月の消費者物価指数が発表される。全体では前年比+8.8%と依然高いが、コア指数では+5.7%と前月の+6.0%から下がると予想されている。そうなると米国市場には良いニュースだろう。金曜日に中国で4-6月期の実質GDP成長率が発表される。前年比+1.0%と予想されている。前年の中国経済が急回復したので、マイナスになっても不思議ではないが、そのような発表はしないだろう。同日米国では6月の小売売上高が発表される。前月比+0.9%と前月のマイナス0.3%からは大きく改善すると期待されている。

KPAの投資戦略

ロング（買い）	ショート（売り）
好財務の割安株、今期増益株	高PB低位株、高PE新興株

(注) ヘッジ・ファンド向け戦略としての一例。投資期間は半年程度を想定。



本レポートは、情報提供の目的のみでご利用者に提供されるものであり、有価証券売買に関する何らかの申し込みまたは勧誘を意図するものではありません。本レポートに記載されるすべての意見および予測は、レポートの日付時点におけるコマツ・ポートフォリオ・アドバイザーズ(以下、KPA)の判断であって、予告なしに変更される場合があります。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析がすべてのご利用者にとって適切であるとの表明を行うものではありません。ご利用者は、投資に伴うリスクとメリットがご自身にとって適切であるかどうか、自己の責任で判断して頂きます。KPAは本レポートについてその正確性、完全性または適時性を保証していません。KPAはいかなる保証も行わないことを明確にしています。KPAは本レポートに記載される情報もしくは分析にご利用者が依拠した結果として被る可能性のある直接的あるいは間接的な損害について責任を負いません。本レポートについての知的財産権はKPAに帰属し、著作権、特許権、商標権その他の知的財産権に関する法令により保護されています。本レポートを印刷した場合も、その印刷物の著作権は、KPAに帰属します。ご利用者は個人的利用を目的としたバックアップのためにのみ印刷、複製することができます。プリントアウトした印刷物や複製したデータを、個人的利用以外の目的で使用することはできません。ご利用者は、本レポートを、有償・無償を問わず、第三者に提供することはできません。また、これを改変、修正することはできません。本規定にご利用者が違反した場合、KPAは金銭的な損害賠償を含む救済手段を請求する権利があります。